



□□ \_\_\_\_\_ □□

1. お知らせ … 色川先生にお別れの挨拶

□□ \_\_\_\_\_ □□

日本自費出版文化賞の選考委員長を第1回から20年間務めていただいた色川大吉先生が9月7日にお亡くなりになりましたが、10月24日（日）に関係者3人でお別れの挨拶に行ってきました。

文化賞以前から交友のあった清水顧問、最後の著作『不知火海民衆史』（揺籃社）の編集者でもあった山崎領太郎副代表理事、そして川井の3人です。

八ヶ岳山麓の色川先生のご自宅は別荘が点在する山の中でした。遺影の横に、特別功労賞の賞状を置かせていただきお線香をあげてきました。

□□ \_\_\_\_\_ □□

2. お知らせ … 第36回自費出版アドバイザー講座  
「自費出版を電子出版する方法  
デジタルハイブリット出版の可能性」  
申込受付中 （添付PDFご参照）

□□ \_\_\_\_\_ □□

自費出版も紙と電子の両方同時の出版の時代がすぐそばまで来ているようです。今のうちに電子出版制作と販売の要点を学んではいかがでしょうか。

日 時：2021年11月17日（水） 15：00～16：40

場 所：ジャグラ本部会議室 オンライン(YouTubeライブ)もいたします。

研修費：ネットワーク会員2,000円、ジャグラ会員2,500円、その他3,000円

詳細はPDFご参照。

□□ \_\_\_\_\_ □□

3. トピックス …アマゾンが紙の書籍の個人出版を サイトで販売も

□□ \_\_\_\_\_ □□

アマゾンジャパンは、個人が出版社（や印刷会社）を通さずに紙の書籍を出版できるサービスを始めました。注目すべきニュースです。（添付 j p g ご参照）

□□ \_\_\_\_\_ □□

4. トピックス(?) …メルマガ50号に

□□ \_\_\_\_\_ □□

NP0法人日本自費出版ネットワークが発行するメルマガ「リバティ・パブ」が50号となりました。

創刊以来一回も遅れることなく毎月の月初に発行されてきました。

これは編集長の鳥原由美理事（マルワ/HIME企画）の頑張りによるものです。

□□ \_\_\_\_\_ □□

#### 4. 自費出版事情 … ～会員便り～ No.47

□□ \_\_\_\_\_ □□

「久し振りのお声がけ」

株式会社ウイング 湯川 明子

数年前に何度か一緒にお仕事をさせていただいたライターさんから、自費出版の製作を手伝って欲しくないかと連絡があったのは1月のこと。

事情を聞けば、デジタル化の波によりライティングの場がWEB上に移行して紙媒体の仕事は久し振りだそうで、以前に繋がりのあった近くの印刷・出版会社に連絡を取ってみたが、コロナ禍の影響で1社は看板を下ろし、もう1社は都会を離れて地方に移住してしまっていたと言います。困ったところで3社目によく思い出していただいたという訳です。

お声がけいただいたのは、100歳になる紀寿祝いの記念冊子づくり。「あなただったら誌面レイアウトだけでなく、サイズや紙質までこだわった仕様を提案してくれるでしょうか？」と、読み物メインで自費出版に携わってきた私にはハードルの高い言葉をもらいつつ、お引き受けしました。

お客様である息子さん夫婦と直接お会いするのは2回のみ。途中経過はオンラインでの打ち合わせと宅配便でのやり取りで進行しました。完成品は幼いひ孫達も手にしやすい絵本タイプ。ご家族の思いが詰まった1冊です。コロナ禍でホテルでのパーティーは中止でしたが、オンラインでお祝いの会を行った8月には親族の方から好評だったとのご報告をいただき、その満足した様子に胸を撫で下ろすことができました。

急速なデジタル化で、かつては旺盛だった営業目的のPR本は衰退しています。電子ブックやネット通販を利用してなるべく安くつくりたいという自費出版もある一方で、少し費用が高くついても本づくりによって精神的な満足を得たい方々は一定層いらっしゃると思います。弊社のある和歌山のような地方都市なら、なおさらです。

日頃は商業印刷中心の受注で工務の仕事をしていますが、たまにある自費出版のご相談には普段とは別のやりがいを感じます。お客様の頭の中にある「こんな本をつくりたい」という想いをどう具体的にするかを手探りで一緒に考え、希望に沿ったものができたとき、共に満足感・達成感を味わっています。

□□ \_\_\_\_\_ □□

☆ 知っとこ 岐阜 ☆ (再) その6

□□ \_\_\_\_\_ □□

知っとこ岐阜 その6

岐阜が舞台の小説・映画 えとせとら

岐阜とってまず思い浮かべるのは、長良川の鶺鴒や世界遺産に登録されている白川郷ではないでしょうか？しかしここ最近、若者を中心に「映画のロケ地」としての岐阜が注目を集めています。

実は昔から岐阜は小説や映画の舞台になることが意外と多いのです。古くは、川端康成の初恋と失恋を描いた短編『篝火・非常・南方の火』や、司馬遼太郎の『国盗り物語』、島崎藤村の「夜明け前」、宇野千代の『薄墨の桜』など、素敵な作品がたくさんあります。また、西村京太郎のトラベルミステリーの中にも、高山線や特急ひだをモチーフにした作品がたくさんあります。

2016年に公開され、全国的に大ヒットした新海 誠監督の長編アニメーション映画『君の名は。』の舞台が飛騨高山というのは有名な話です。また、京都アニメーション制作の『聲の形』は大垣市が舞台です。どちらの映画も実際の場所が作中で細かく描かれていることなどから、日本のみならずアジア各国からも多くのファンが聖地巡礼の旅として現地を訪れています。

次回から、私がお薦めする「岐阜が舞台となった物語」を何回かに分けてご紹介したいと思います。かなり独断と偏見になりますがそこはお許してください。

株式会社 岐阜文芸社 飯尾みゆき

\*\*\*\*\*

#### ★あとがき

このメルマガは川井代表理事から原稿が送られてきて、それをまとめているのが私です。その原稿の中で50号を称えてくださいましたので、恐縮ながらそのまま掲載させていただきました。

4年と少し経ちましたが、本音のところけっこう大変だなんて思うことは、この「まえがき」と「あとがき」。短い文ですが、季節、世情、読者の顔など思い浮かべ、書いたり消したり・・・。そして、もうひとつ「会員便り」の寄稿ご依頼の時。ごく稀にお断りが入るのが一番つらい。ということで、皆さま会員便りの寄稿依頼はご快諾のほどお願いいたします。

会えない時も、このリバティ・パブで情報交換し、さらに自費出版文化を広められるように、努めてまいります。皆さまからの情報もお待ちしております。

今後ともどうぞよろしくお願い致します。

最後までお読みくださりありがとうございました。

---

お気づきの点、掲載情報、はたまた私への激励のお言葉がございましたら yumi@maruwanet.co.jp まで、お願いいたします。

\*\*\*\*\*

◆日本自費出版ネットワーク事務局  
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町7-16 ニッケイビル7階  
電話：03-5623-5411

